

学校教育目標	「自分大好き 友だち大好き 共に学ぶ子 実践する子」 ○自分の考えをしっかりとち、困難なことにもあきらめず、自ら進んで学習する子を育てます。(知) ○人に対して優しく思いやりをもって行動し、人の心の痛みのわかる子を育てます。(徳) ○基本的な生活習慣を身につけ、健康の保持増進を図ると共に、命あるものを大切にしようとする子を育てます。(体) ○地域の環境や人を大切に、進んで人のためになる行動の取れる子を育てます。(公) ○いろいろな人とのコミュニケーションを大切に、よりよい生活について考える子を育てます。(開)				
	学校概要 創立 19 周年 学校長 大幸 麻理 副校長 仲川 由佳理 2 学期制 一般学級: 23 個別支援学級: 5 児童生徒数: 799 人 主な関係校: 中山中学校・中山小学校・上山小学校				

教育課程全体で育成を目指す資質・能力	中ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける「9年間で育てる子ども像」と具体的な取組
○協働的に課題を解決する力 ○共生社会を形成しようとする姿勢 ○主体的に参画する態度	中山中学校 中山小学校 上山小学校	○主体性をもって課題を解決する子ども ○豊かなコミュニケーション力をもつ子ども ○「まち」を大切にできる子ども ----- ・教育活動の中に人との豊かなかかわりを積極的に入れ込んでいく。 ・挨拶運動や花いっぱい活動、ボランティア清掃などへの児童の参加を一層進める。 ・授業研究会への参加を他校へも呼びかけ、本校の児童の様子を他校と共有していく。 ・地域行事への積極的な参加を勧める。

中期取組目標	○子ども一人ひとりに向き合い、「ひと」や「まち」との関わりを大切に、活力と魅力あふれる学校づくりを進めます。 ・子ども同士の関わり合いと認め合いを育み、新学習指導要領に沿った学習活動を展開します。 ・特別支援教育の視点を大切に、問題解決学習型の授業づくりに取組み、進んで問題を解決していく子供を育てます。 ・家庭・地域・関係機関との連携をより一層強め、子どもの心に自尊感情・自己有用感を高めるように取り組んでいきます。 ・楽しみながら学び、健康・体力の向上に寄与する学習の充実を図ります。 ・全教職員が互いに学びあい、啓発し合って自らの力を磨いていく学校づくりを進めます。
---------------	---

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知	①学年での教材研究を充実させ、基礎・基本をしっかりと身に付けられるようにすると共に、評価規準を明確にした上で、身に付けさせたい資質・能力をしっかりと育む指導の充実を図る。②子どもの主体的な姿勢を育むために、子どもが分かった、できたと実感できる問題解決的な授業展開の在り方や支援の仕方を工夫する。
担当	教育課程・研究・研修委員会
地域連携	①各学年における生活科・総合的な学習の時間の展開から、昔遊び、花いっぱい運動、自然観察、田の学習など、地域の方々から教えていただく場を設定し、豊かな人との関わりの中で思いやりの心を育てる。②学習や地域行事などから、地域の方々に感謝の気持ちをもつとともに、自分が地域の一員であることを自覚できるようにする。
担当	教育課程・研究・研修委員会 生活・総合部
自分づくり教育(キャリア教育)	①異学年で構成する縦割り活動やペア活動を意図的・計画的に行い、互いの年齢の違いを理解しながら様々な活動を計画から実践まで進んで取り組むことで、自主性と実践力を育てる。②学年ごとの系統性を明確にしたキャリア発達を促進するために、自分づくりパスポートを活用しながら、全教育活動を通してキャリア教育に取り組む。
担当	教育課程・研究・研修委員会 生活・総合部
豊かな心	①自らあいさつができるよう子どもたちの意識の向上を図る。あいさつ団や交流委員会のあいさつ運動など子どもたちが主体となって、あいさつの輪が広がっていくようにしていく。②年1回の道徳の授業公開を全学級で行うとともに、授業を通して自ら課題を立て自分の在り方を振り返り、自他を認める心を育てる。③様々な人との関わり合いを大切に、個性の違いを認められる心や思いやりの心を育てる。
担当	児童活動委員会 児童指導・特別支援教育委員会
児童生徒指導	①専任教諭を中心に、児童の実態を日常的に共有化し、全職員で対応できるようにする。②森小スタンダードを共通理解し、全職員が同じ目線で指導に当たる。③社会的マナーやネット利用に関する出前授業等を実施し、児童の規範意識を育てる。④不登校・いじめに関する研修会を定期的に行い、児童理解を深め、教職員の感性を高める。
担当	児童指導・特別支援教育委員会
特別支援教育	①児童支援専任、特別支援教育コーディネーターを中心として、特別支援教育の充実を図る。年に一度、特別支援研修会を行い、子どもの見方・支援の仕方を学んでいく。②ユニバーサルデザイン化した、誰もが分かりやすい授業の展開を工夫する。③児童の実態に基づいて個別の指導計画・教育支援計画の充実を図り、計画的に「身に付けたい力」をつけられるような、指導・支援を工夫する。
担当	児童指導・特別支援教育委員会
健やかな体	①体力向上のために、1校1実践の長縄跳び、ラジオ体操の計画的な実践を継続する。②自らの健康に関心を高めるため、日々の給食指導や保健指導を大切に、季節や課題に応じた情報提供を行い、興味・関心を高め、行動化、習慣化を育成する。
担当	児童活動委員会・体育部 保健安全給食委員会
いじめへの対応	①いじめ防止研修を毎月行い、いじめを見逃さない目や初期対応の在り方について、全職員で学び合う。いじめの早期発見に努め、いじめ防止対策委員会の機能化を図り、迅速で組織的に対応をしていく。②学年研や4委員会で情報交換する場を設け、全児童を全職員で見守る意識を高める。③朝会・集会・授業・掲示等で定期的に発信をし、いじめをしない・許さない風土作りを努める。④11月末には、児童会児童が中心となって、いじめをしない学校作りの取組を発表する。
担当	児童指導・特別支援教育委員会
人材育成・組織運営(働き方改革)	①教職員一人一人が、自分のキャリアステージに応じた目標と具体的な取組を設定(自己観察書)し、役割を自覚して学校運営に参画できるようにする。②学年研や重点研究会などの会議・研修だけでなく、日々の校務全てを人材育成(学び合い)の場と捉える。経験年数や学年、組織を越えて互いにかかわり合う雰囲気や大切にしていく。「みんなで育てる。みんなが育つ! チーム森の台」③学級の問題を学年研や主幹会で共有化を図り、担任一人が問題を抱えることのないよう支援・連携に努める。④学校行事や校務の精選、簡略化を積極的に推進する。グループウェアを活用し円滑な情報の発信、共有化を図る。横浜市電子申請・届出システムの利用も検討していく。
担当	主幹会・MTM